

# 道志村未来通信12



2018年6月1日発行

## 「世代を超えて安心して暮らせる村づくり」プロジェクト 各活動の今を報告するワークショップを開催しました

去る3月26日、全てのプロジェクトに関わっているメンバーのみなさんが集まって、全体ワークショップをおこないました。各プロジェクトがそれぞれに活動の「今」や課題などを発表し、意見交換をおこないました。その様子を本号ではお伝えします!

### お茶のみ会

道志村全体に広がったお茶飲み会。  
各地区それぞれに個性があるのもおもしろいですね。  
お年寄りのことを思いやりながら、活動メンバーも楽しんでいることが  
継続の何よりの秘訣でしょうか。



送迎があれば行ける  
という人もいるね

### 川原畑地区

- ・アットホームでまとまりがある。人数は少ないけど、楽しくやってる。
- ・冬はいったんお休み。春になったらまたやろうね、楽しみにしてるよ、と話している。
- ・手作りのおやつに人気集中。リクエストも来る! 買ったおやつはお土産に。
- ・お年寄りの中にも動いてくれる人がいるので、活動メンバーがお世話をしているという感じはない。

### 馬場地区

- ・おやつを買ってきてても、やっぱり作ったおやつが人気! おばあちゃんたちや活動メンバーも作ってくるのが楽しみ。
- ・準備や片付けも自分たちでやってくれる。活動メンバーがいなくても自分たちで楽しんでいる。
- ・スパランドや湯に行くこともある。
- ・イベントがあるときは、3人のふれ役のおばあさんに言えば、みんなに伝わるようにしてくれるので助かる!

### 善の本地区

- ・1月は雪でお茶会お休みに。2月はお風呂に行った。
- ・作ったおやつは喜ばれる。「どうやって作るの?」など、話もはずむ。  
→ご飯も一緒に食べたいな、という声も!
- ・参加者は、ももとの住民が多い。
- ・新しく参加された方がアカペラを披露してくれた!
- ・こうやって続けていくことを大事にしたい。

### 全体のこと

- ・日程は、各地区のおおまかな原則に基づいて宮下さんがコーディネート。告知端末で流している。
- ・もちよりが競争になってしまうことはない?  
→困るほど持ち寄るといったことがない。
- ・似顔絵を描いてもらえてみんなよろこんでた!  
→文化祭で展示会をやったらどう?
- ・お茶のみの全体会をしたい!

どうやったら男性にも  
来てもらえるかな

# 買い物ツアー

1年半前からはじまった「買い物ツアー」。  
主に一人暮らしのお年寄りやお年寄りのみの世帯を対象に、役場のバスで村外の食料品や生活用品のお店に行きます。  
物を選ぶこともさることながら、ボランティアのメンバーが同行して、お昼には一緒にご飯を食べたり、バスの中でおしゃべりしたり。こういうリズムや緊張感がとても重要なことのようにです。

## ●みんなで出かけて、自分で物を見て選ぶのが楽しい！

- ・最初は参加者が少なかったけど、口コミで広がった。
- ・「買い物だけじゃない」ということが、評判を呼んだみたい。
- ・1人で家でご飯を食べるよりも、みんなで外に出るのがいい。自分で物を見て選ぶのが刺激になるし、楽しいということだと思う。
- ・みんな、楽しみにしているみたい。

## ●参加者はどのくらい？

- ・参加者は15名ほど。まだ2~3名は増えても大丈夫。
- ・今まで設けていた参加条件を拡げて、昼間独居の方や高齢者夫婦世帯の方にも利用してもらえるようにした。

買い物ツアーに行く人が増えると、村のお店を利用する人が減ってしまわないかな

村内で手に入るものと、外に出るものと、組み合わせたいけるといいよね

村内の商店はお菓子など小さな物でも届けてくれるから助かるよ

買い物ツアーにいけない人の買い物支援についても考えたい。

買い物ツアーも、1か月に1回では足りない。  
人材バンクのようなところで、買い物支援が充実してくると暮らしやすくなると思う。

## ●大きい買い物をしたいときに、助かる！

- ・大きいものを買うときにも助かる。
- ・夏や冬は、大物を買う人もいる。
- ・大きい荷物があると困るからと、住民健康課の方々が家まで車で運んでくれるようになった。  
→このしくみができるまでは、スタッフが家の近くの人に「車で持って行くよ」と声をかけたりしていた。

課題を可能性に変えていこう！



「買ってきてもらう」と「買いに行く」を両面から組み合わせたい。

困っていても口に出さない人もいる。

みんなが使い始めれば「使ってみようかな」という気持ちになってくるかも？！

人材バンクを立ち上げようという動きがあります。10月頃から始動できるよう、ただいま準備中だそうです。困っている人の役に立つのはもちろん、「担い手の収入づくりにもなればいいなと思っています」というお話でした。

## 移動手段

運転できない方やお年寄り、子どもも自由に行きたい場所に行けるよう、村内の移動手段を考えようとはじまったこのプロジェクト。役場の担当課とも話し合いを重ね、一歩ずつ前進しています。

## これまでの流れ

- ・これまでの経緯のなかで、バスのことなど役場の考えがはっきりしたら、それに対してこのプロジェクトとして何をするのかを考えようという姿勢でやってきました。
- ・その後、役場とプロジェクトメンバーで、何から進めたらいいのか検討するためにミーティングをおこないました。

## 今後の方向性



「デマンドバスにしたとしても、空バスになっては困る」「普通免許で運転できる10名乗りくらいの小型バスがいい」「気兼ねなく使ってもらうためにも、有償にしよう」「でもワンコインの範囲でやりたいね」という話をしています。

デマンドバスをはじめるとしたら…

### ■どこを走る？

どの道を廻るか…。村内にも走っていてほしいし、村外に行く足もほしい。

### ■運転手は？

住民から有志を募ろう！

### ■運営主体は？

道志の性格上、役場がやるのがいいのでは？

### ■周辺組織との連携

商工会や観光協会、整備工場の協力があると心強い。

### デマンドバスって？

決められた路線／決められた停留所を走るだけでなく、利用者の求め（デマンド）に応じて運行するバス。

移動手段について、  
たくさんの期待が  
あります！

買い物ツアーは1か月に1度。都合が合わなかったときに村外に気兼ねなく行けると助かるな。

車に乗れる人もいろいろ用事がある。頼まれた時に動けないこともあるから、送迎の仕組みがあると助かる。

今は、新住民の人の用事のついでに、もともとの村民の人が載せていってもらうということもあるよ。

自分が運転できなかつたら、ずっと家にいて暗くなっちゃうかも。電話で頼めたり、送迎してくれるところがあるといいなと思う。

高齢者の交通事故も心配。ある程度の年齢になったときに、安心して運転を控えられると仕組みがあるといいよね。

## 道志の 魅力を伝える プロジェクト

### 郷土史を語る会の 活動について うかがいました

外から来る人も案内してもらえるといいな。

もしかすると、  
道志の人知らないことが多いかも…

子どもたちにも  
道志の魅力を  
もっと伝えていきたいね

◆毎年どんど焼きをやるたびに、安心プロジェクトのみなさんに手伝ってもらって助かっている。(今年は大雪だったので、団子刺しのみでしたね。)

◆案内つかまつり隊が活動を一時ストップしているので、ガイドの依頼が郷土史を語る会に来た。横浜市の人を案内した。

◆4月から、案内つかまつり隊が活動を再スタートする。

◆毎年春と秋に行っている日帰り旅行。先日は、松田町の寄(やどりき)へ。昔、ミカン収穫がきっかけで道志村からお嫁に行った人もいる集落。つまり村の子孫が100名くらいいる!みんなでお茶のみした。

◆子ども用に、村の文化を伝える資料をつくったが、うまく活用されていないのが課題。

## 住民健康課から、メッセージ!

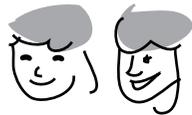
◆お茶のみは、出ている人には喜んでもらっていますし、ご家族からも「閉じてもり気味のお年寄りにも声をかけてもらって助かっています」という声が届いています。

◆買い物ツアーも、出てこない人がいると「どうしているかな」と気にしたり、副産物が生まれています。

◆移動手段については一歩ずつ、ですね。あきらめないでほしいと思っています。

◆みなさんが安心して暮らせる村になっていくといいなと、心から思っています。

これからもよろしくをお願いします!



## 顔の見えるあたたかい村づくり

道志村の皆さんとおつきあいをして、「人を思いやる気持ち」こそが道志村の文化そのものだと感じています。

その文化を子どもや村外の人に伝えたり顔の見える人々と確認し合ったりすること、それをどういった方法でやっていくかが、村づくりなのではないでしょうか。

4年間、小さな事からチャレンジして、それを改善したり広げたりするために話し合いをして、また行動…という活動を続けてきました。

是非、これからも、行動ありきの村づくりが続いていきますよう応援しています!ありがとうございました。

NPOコレクティブハウジング社  
狩野三枝、川上英里

この事業は平成24年度予算の「高齢者福祉事業調査費」により村民・役場・委託事業者の協働作業で行われております。

〈お問い合わせ〉  
道志村役場住民健康課 52-2113まで

世代を超えて安心して暮らせる村づくりの皆さんの協力をいただき、皆さんと4年間取り組んできました。道志村の課題や良いところを話し合うことから始まり、自分たちで出来ることは何かないのかととても前向きで明るい皆さんが居たからこそここまで来れたのだと心から感謝いたします。今後も安心して暮らせる村づくりをめざして住民の皆さん一人ひとりのお力添えをいただきながら一歩ずつでも前進していきたいと考えています。(MM・SN)